

複合的資源管理型漁業促進対策事業調査

ミズダコ

(抄録)

小向 貴志

はじめに

本研究は津軽海峡沿岸に生息するミズダコの漁獲状況、標識放流による移動生態を研究することを目的とした。

材料と方法

漁獲統計調査

県内に水揚げされたタコ類の水揚げ量を県統計を基に海域別に集計した。

標識放流試験

奥戸、大間、岩屋、尻屋漁協において標識放流試験を行った。

結 果

漁獲統計調査

タコ類は 1986 年に最高の 3,426 トンを記録した他は 1,000～3,000 トン台で推移している。本種は年毎に大きな変動はなく、長期的な変動パターンであった。津軽海峡の全県に占める水揚げ量は 1987 年以降 6 割台で推移している。

(青森県におけるタコ類は漁獲統計上タコ類として一括集計されるが、津軽海峡ではほとんどがミズダコである。)

標識放流試験

再捕個体数に占める、放流海域で再捕された個体の割合は、全体で 59% であった。また、約 8 割が青森側の津軽海峡内で再捕された。津軽海峡を渡った個体は 18% で、北海道渡島半島沿岸の戸井町～木古内町が殆どであった。津軽海峡以外での再捕は八戸沖で再捕された 1 例のみであった。試験場では過去に同様のミズダコ標識放流を行っているが、その多くが放流した海域で再捕されている。

考 察

ミズダコは非常に成長が良く、1～2kg で放流した個体が 1 年後には平均して 10kg 程になること、放流した個体の移動が少なく、津軽海峡外に移動することは殆どないこと等から、現在行われている資源管理 (2kg 以下の小ダコの再放流) は意義のあることだと思われる。

発表誌：平成 11 年度複合的資源管理型漁業促進対策事業報告書：平成 12 年。青森県